

(仮称) S V H千里丘新築工事に係る
環境影響評価提案書に対する審査書

令和元年（2019年）11月

吹田市

(仮称)SVH千里丘新築工事に係る環境影響評価の実施にあたっては、最新の科学的技術・知見に基づき行うとともに、下記の事項について十分留意されたい。

記

1 交通混雑・交通安全

事業者が提案書で示した自動車動線計画は、関係機関との協議の結果、右折入退場が原則禁止となり、事業計画地の北側出入口へは迂回路のような経路を通ることとなったため、北側出入口の利用が促進されず、南側出入口付近の丁字路や千里丘北交差点等に交通負荷をかけるものであった。

これに対し審査会が、提案書の審査段階で、可能な限り北側出入口の利用を促進し、南側出入口付近の丁字路や千里丘北交差点等への負荷を抑制するよう事業計画を再検討することを求め、事業者はこれに応じて新たな交通計画を提案し、審査会においてその妥当性が確認されたところである。

提案書の審査段階で、事業者が提案した交通計画の妥当性に関する審査が慎重に実施されたのは、交通問題が当該事業において最も重要な環境側面であり、この段階で交通流のフレームを設定しておく必要があったためである。

なお、関連事業として周辺の道路改良等を実施するにあたっては、引き続き道路管理者等と協議するとともに、歩行者及び自転車利用者の安全性の向上についても考慮することが望ましい。

(1) 環境取組

ア 駐車場出入口において、入退場における歩行者等の安全対策を検討すること。

イ 事業計画地周辺には複数の教育・医療施設等が存在するため、工事中、供用後ともに施設関連車両の走行ルートにおける交通安全対策を検討すること。

ウ 南側出入口から右折退場をさせない方法を検討すること。

(2) 現況調査

ア 自動車動線計画の変更に伴い、新芦屋上交差点を調査地点に追加すること。

イ 自動車動線計画の変更により、新たに歩行者及び自転車との交錯が生じるため、その歩行者及び自転車通行量を調査すること。

ウ 一般的な平日、休日だけでなく、その調査時期に市立吹田サッカースタジアムでの試合日等、事業計画地周辺の交通量（歩行者、自転車を含む）の増加が予想される日を追加すること。

エ 上記試合日等の駐車場の無断利用及びそれに伴う退場車両の集中を防止する事業計画地周辺の商業施設等での取組事例を調査すること。また、その調査結果の事業計画への反映を検討すること。

(3) 予測及び評価の方法

- ア 予測の前提となる交通計画及び方面別の来場車数を明確にしたうえで、予測すること。
- イ 交差点需要率では予測及び評価が難しい箇所（駐車場出入口付近、交通混雑が予想される信号のない交差点等）についても、交通容量の計算等により予測・評価を行うこと。

2 温室効果ガス・エネルギー

(1) 環境取組

- ア 商業施設では全国トップクラスといえるCASBEE Aランクを目指したエコストアを実現するため、積極的な再生可能エネルギーや未利用エネルギーの活用、高効率な省エネルギー機器の採用、断熱性能の向上等を図り、温室効果ガス排出量を抑制する事業計画を検討すること。
- イ 省エネルギーに寄与する効果的なエネルギーマネジメントシステムの構築を検討すること。

(2) 現況調査

類似の施設における再生可能エネルギーや未利用エネルギーの活用、高効率な省エネルギー機器の採用、断熱性能の向上、エネルギーマネジメントシステムの導入等に関する先進的な環境取組の実施状況等の事例を調査すること。

(3) 予測及び評価の方法

計画で予定している環境取組（先進的な環境取組を含む）を実施した場合と実施しなかった場合の予測を可能な限り定量的に行い、その結果を比較することによって評価を行うこと。

3 廃棄物

(1) 環境取組

廃棄物の発生抑制や再資源化を推進する方法を検討すること。

(2) 現況調査

類似施設における先進的な廃棄物の発生抑制や再資源化の事例を調査すること。

(3) 予測及び評価の方法

計画で予定している環境取組（先進的な環境取組を含む）を実施した場合と実施しなかった場合との予測を可能な限り定量的に行い、その結果を比較することによって評価を行うこと。

4 ヒートアイランド現象

(1) 環境取組

高反射率塗料の塗布、遮熱性・保水性舗装の採用、緑化等のヒートアイランド対策によ

り、建築物や平面・屋上駐車場、敷地内通路等の蓄熱を抑制する方法を検討すること。

(2) 現況調査

類似の施設における先進的なヒートアイランド対策の実施状況の事例等を調査すること。

(3) 予測及び評価の方法

計画で予定している環境取組（先進的な環境取組を含む）を実施した場合と実施しなかった場合との予測を可能な限り定量的に行い、その結果を比較することによって評価を行うこと。

5 騒音

(1) 現況調査

現地調査の騒音レベルは、2019年に改正された JIS Z 8731 に準拠すること。

(2) 予測及び評価の方法

ア 施設関連車両の走行に伴う騒音レベルの予測にあたっては、ASJ RTN-Model 2018を用いること。

イ 供用後の道路交通騒音については、その予測時期に市立吹田サッカースタジアムでの試合日等、事業計画地周辺の交通量（歩行者、自転車を含む）の増加が予想される日を追加し、評価すること。

ウ 事業計画地周辺における高層住宅を含めた住宅への影響の把握に努めること。

6 低周波音

(1) 予測及び評価の方法

G特性だけでなく、1/3オクターブバンド値による予測及び評価も行うこと。

7 緑化・景観

(1) 環境取組

ア 緑地計画については、みどりの質及び量を十分に確保するとともに、壁面緑化等を検討すること。また、みどりの配置については景観面にも配慮すること。

イ 特定外来生物が事業計画地に侵入した場合には速やかに駆除すること。

ウ 事業計画地西側の既存植生について、倒木の危険性を排除しつつ適切に保全すること。

(2) 評価の方法

本市第2次みどりの基本計画（改訂版）で掲げる目標（緑被率30%）についても、その達成度合を評価すること。